

ヘレン・ケラーの手紙

1949年(昭和24) ヘレン・アダムス・ケラー 市立函館博物館蔵

ヘレン・アダムス・ケラー(Helen Adams Keller、1880年～1968年)は、アメリカの著述家、社会福祉事業家です。幼少期に罹った急性の熱病のため、視覚と聴覚に障がいを持ちましたが、アン・サリヴァン(Anne Sullivan)による教育を受け、ハーバード大学ラドクリフカレッジを修了しました。その後、世界各地で講演活動を行い、障がい者の教育・福祉を訴え、1937年(昭和12)・1948年(昭和23)・1955年(昭和30)の3回、日本を訪れています。

昨年、このヘレン・ケラーからの手紙が、博物館に寄贈されました。手紙は1949年(昭和24)にヘレン・ケラーが、北海道立八雲高等学校の植村豊記氏に宛てたもので、文末にはヘレン・ケラーの直筆とみられる署名があります。

内容は、植村氏が1937年のヘレン・ケラー来日時に、長万部のアイヌの人びととともに撮影した写真を送ったことに対する礼状です。当時のスケジュールを見ると、ヘレン・ケラーは大沼公園(現、七飯町)や長万部を訪れてアイヌの人びとと交流し、お土産として木彫り熊を購入しています。

滞在中のわずかなひと時ではありましたが、交流のために事前に手配していたことなどから、ヘレン・ケラーにとって、北海道でアイヌの人びとと出会い、その文化に触れたことは特別な意味合いがあったようです。